

飯島賢二の

やさしく解決！ 難問道場

第38回



株式会社 飯島 綜研 代表取締役 飯島 賢二

Q 企業の社会性とその貢献について、どのようなスタンスをとるべきでしょうか？

A

ロータリークラブの精神的支柱の一つに、「職業奉仕」というものがあります。ロータリアンの各企業は、自らの職業を通して社会に奉仕していかねばならない、ただ、儲けることのみを追及していくのは企業本来の目的ではなく、societyの一員としての役割を果たす義務がある…という考え方です。

その具体的方策は、色々あると思います。福祉団体、環境改善、文化や教育関係へ寄付するというのも分かり易い方法でしょう。最も順当な方法は、健全経営の中で企業利益を計上し、納税という方法で社会へ貢献していくことかもしれません。あるいは、地域の雇用を活発化し、人件費という費用を通して地域住民の安定的生活を確保することも、大きな意義があると思います。そして企業の本来の機能として、良質な商品やサービスを提供し社会的付加価値を高めることも、企業の重要な役割と言えます。

こんな発想を原点に抱けば、脱税や脱法行為（ごまかしや虚偽、不正行為）を繰り返し、微々たる利益を作り出すことに躍起になっている独裁者社長、儲けることしか頭にない現代の成金達、マネーゲームに勤しむ幼稚的未熟な若者達、こ

んな連中は「企業」を経営する資格がないと言っているかもしれません。

先般、マスコミの寵児「星野リゾート」の星野社長とディスカッションしました。彼もある意味では間違いなく、時代へのチャレンジャーと評価される人物の一人です。彼は見事に言い切っていました。「地域の旅館組合や商工会にいくら払っても、何も地域は変わらない。地域をよくするのは、我社が繁栄し、他の企業がそれを競合・脅威に思い、一緒になって頑張ればいい…地域との付き合いは、むしろ足かせになる」こんなニュアンスでした。いかにも「星野流」の主張であり、あるいはこれからの時代の一つの新しい提言となるのかもしれません。10年、20年先の「星野リゾート」が、次代を担う大きな産業として定着した時初めて、彼の考え方が正しいのか答えが出るのではないのでしょうか。

企業の社会性は、今後の大きなテーマの一つです。企業の立地が地域社会の中にあるとすれば、地域と企業が無縁であるはずがありません。倒産による社会的影響を考えれば、我企業が社会の一構成員である限り、ゴーイングコンサーンを目指し、社会貢献を果たしていくべきだと思います。

「これからも、ずっと中小企業の強い味方であり続けたい…」

日本経済を支えている中小企業をあらゆる面からサポートし、ご満足いただく。ここに、当社の存在価値があります。

 **IKG 株式会社 飯島 綜研**

代表取締役会長 飯島 賢二
税理士・中小企業診断士

〒360-0024 埼玉県熊谷市問屋町2-4-18 ソシオ熊谷情報センター2F TEL 048-528-2191 FAX 048-528-2197
IKGホームページ <http://www.ik-g.jp>